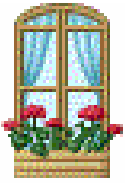


島根の地域医療

第15号 島根県健康福祉部医療対策課 06 January 04
e-mail: iryou@pref.shimane.lg.jp
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



事務局からこんにちは！

◆第15号は戌年の新年号となります。

◆巻頭は正林健康福祉部長から新年のごあいさつをいただきました。

◆また、昨年赴任いただいた赤ひげ先生からのレポートもあります。

明けましておめでとうございます。

本年も宜しくお願いします。

新年早々ですが、島根の医療事情について最近の動向をお伝えしたいと思います。

かつての医学部卒業生はその大部分が大学の医局に入局し、数年単位で病院を替わりながら専門分野の臨床能力を磨いてきました。多くの医師はこの独特の医局という制度に乗っかっていれば少なくとも就職の心配をする必要はなく、ある程度の臨床能力が身につく、少し頑張れば博士号も取得できることから自分の意に沿わないような僻地勤務命令も含め、医局人事に従ってきました。こうした医局人事が日本の地域医療を支えてきたことは事実でしょう。

しかしながら、最近は医師の趣向も変わり、自由に自己主張する若い医師が増えてきました。教授から僻地勤務を命じられても堂々と断り、場合によっては医局とは縁を切り、現在勤務中の病院にそのまま留まったり、新たに自分で病院を探したり、開業したりする医師が増えてきました。結果として生活が不便で子どもの教育上不利になりやすい僻地勤務は敬遠され、都市部に医師が集中し、都道府県間はもちろんのこと、県内でも医師の地域格差は拡大してきました。島根県内は旧59市町村の枠組みで人口10万人あたりの医師数を比較すると、実に40倍の地域格差を生んでおり

ます。さらに今回医師の初期臨床研修が必修化され、そのこと自体は決して間違っていないと思われませんが、ほとんどの臨床研修指定病院が各県の都市部に位置し、初期の後、3年目以降もそうした都市部の病院で研修するとなるとその後もその病院に留まる者も出てくることから、結果としてますます医師の地域格差は拡大していくおそれが生じています。

こうした問題に対応するため、従来から県は赤ひげバンクの創設や僻地勤務を条件とした奨学金の貸与、学生のうちから僻地を理解してもらうため、夏休みを利用した僻地実習、僻地と都市部の病院を交互に勤務しながら専門性を磨いていく専門医養成プログラムなどに取り組んで参りました。また、平成17年度からは研修医等定着特別対策事業なども行ってきました。さらに来年度に向けて島根大学の地域枠推薦者に対して奨学金を貸与したり、後期臨床研修医が県外に流出するのを防ぐため、研修医が希望する国内外研修を行う県内の研修病院に対し、財政支援を行うなど様々な医師確保策を予算要求しています。



島根県庁

このような県独自の取り組みに加え、医師の地域格差を是正するため、診療所の管理者となる要件に医師不足地域における一定期間の診療経験を付加する、といった法改正を伴う抜本的な対策を本県から提案し、全国知事会や全国衛生部長会を通じて国に対して要望も行って参りました。

多くの県民がどこに住んでいても安心して良質な医療が享受できるよう、今後とも全力で取り組んでいく所存であります。読者の皆様にもこうした島根の現状や県の取り組みをご理解いただき、ご支援賜りますよう

お願い申し上げまして念頭のご挨拶といたします。



平成18年元旦
島根県健康福祉部
部長 正林督章

地域医療最前線その19

=島根の地域医療に参加して=

昨年7月に赤ひげバンクを通して島根の地域医療に参加させていただきました。赴任先は1昨年11月に町村合併した雲南市掛合町です。町の面積は109.50km²ですが85%を山林が占め耕地は11%にすぎません。そのため多くの人が第2・3次産業に従事しています。

診療所の業務ですが、午前中は専ら外来診療で、外来患者と隣接施設のデイサービス利用者を診ています。午後は日替わりで訪問診療、特別養護老人ホーム回診、波多地区への出張診療、産業医・学校医活動とバラエティーに富んでいます。産業医の資格は9月に修得したばかりですが、5つの事業所と契約し職場巡視をしています。学校医も未経験でしたが、健診・予防接種で学校にお邪魔しています。施設入所者の主治医も初めてです。毎週、特養「えがおの里」を訪問して看護師に患者さんの近況を聞きながら回診をしています。



地域医療の担い手作りに少しでも役立てばと考え、今年5月より島根大学医学部学生が地域実習を受け入れる予定です。自身の研修も赴任当初から県立中央病院でさせてもらっています。腹部超音波検査の研修を終え、現在は、上部消化管内視鏡の研修中です。

慣れない仕事が多い上に、お年寄りの言葉が理解できず山間部の生活習慣に関する理解もまだ不十分なため、どちらかといえば毎日の

仕事に汲々として視野を広げた活動に手をつける余裕がありません。

当面は、目の前の課題を毎日少しずつこなしながら、地域にも仕事にも馴染んでいき、徐々に活動範囲を広げまた深めていきたいと考えています。



【雲南市国保掛合診療所長 本多】

研修医のページ その5

2年目の研修医師から

新臨床研修制度 1期生として、母校である島根大学医学部附属病院で研修をさせていただいております。2年間のローテーションで必修である内科、外科、麻酔科、救急、小児科、産婦人科、精神科、地域医療などの研修を行っております。地域医療研修では離島医療として隠岐の島町の都万診療所と隠岐病院で研修を行いました。

大学病院の特徴は各領域の医師達がカンファレンスなどを通し、的確な診断に基づいた治療を行い、専門的な医療を提供できることにあります。研修医としてそのような医療現場に積極的に関わることによって、基礎から鍛えられたと思います。

地域医療研修では大学病院では経験できないことを学びました。在宅患者のケア、病診連携、保健医療福祉の連携、そして何よりも生活習慣病の予防活動やその管理について、自分自身が地域の一住民となり、患者と同じ目線にたって、生活上の問題点を探ることができました。

新臨床研修制度については賛否両論ありますが、少なくともこの2年間の研修では様々な場所で様々な分野の医療を経験し、視野を広げることができました。また医師だけではなく、様々な人たちとの関わりの中から多くのことを学ぶことができたことは、今後全人的医療を行う上で貴重な財産になるものと確信しています。研修も残りあと3ヶ月となりましたが、引き続き有意義なものになるよう努力していきたいと思っています。

【島根大学医学部附属病院 伊藤】



県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成17年12月27日現在)

<求人> 28件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科
浜田市(病院)／内科
雲南市(病院)／内科
出雲市(診療所)／胃腸科、肛門科
邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療

鹿足郡(病院)／内科、外科
仁多郡(診療所)／内科
浜田市(診療所)／内科
鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科

益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科

松江市(病院)／内科、麻酔科
浜田市(病院)／内科、放射線科

江津市(病院)／精神科
仁多郡(病院)／眼科、内科

松江市(その他)／不問
松江市(病院)／内科、リハビリテーション

出雲市(病院)／内科
松江市(その他)／内科
浜田市(その他)／内科
鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリテーション

松江市(病院)／内科、整形外科
邑智郡(病院)／内科、整形外科、産婦人科、放射線科

松江市(その他)／不問
雲南市(病院)／麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科

大田市(病院)／精神科、内科
松江市(病院)／神経内科

松江市(その他)／不問
浜田市(その他)／不問

<求職> 0件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
【電話番号】0852-21-8813(専用電話)
【ホームページアドレス】

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm> 【担当:吉岡・塩田】

見交換が行われました。県ではこれらの意見を参考に研修体制の充実に努めてまいります。



【医療対策課 古瀬】

◆「第4回地域医療セミナー」報告

県では、医学生等を対象に、地域医療への理解を深めていただくため、今年度から地域医療セミナーを実施しており、11月19日に第4回セミナーを開催しました。

より広く地域医療に関心を持っていただくため、今回は医学生だけでなく看護学生にも参加を呼びかけ、24名の方に参加いただきました。

セミナーでは、実際の地域医療現場で活躍されている、金城診療所 斎藤稔哲所長、訪問看護ステーション愛 徳島敏枝所長、島根大学医学部臨床研修センター研修医伊藤真理子先生に、それぞれの立場から地域医療の現状や課題などをご講演いただきました。学生たちは、各先生の地域医療に対する熱い思いを感じ取ったことと思います。




ワークショップの様子

また、ワークショップでは、「地域医療には何が求められるか」、「やりがいを持って地域医療に取り組むために何が必要か」をテーマに、学生自ら考え、グループ毎に話し合い発表してもらいましたが、学生の皆さんの地域医療に対する意識の高さがうかがえるものとなりました。

参加した学生からは、「現場の先生から地域医療の具体的な内容を聞き、自分の将来を考えるうえで参考になった」、「看護の立場から見た地域医療の話は興味深かった」、「自分も地域医療の現場を見てみたい」などの感想がありました。

今後も、1人でも多くの学生の皆さんに地域医療への理解を深めていただけるよう、皆さんの意見、希望などを取り入れながらセミナーを企画していきたいと考えています。

【医療対策課 石橋】

◆「臨床研修プログラム発 展講習会」報告

—今年度2回の講習会を開催—

県内臨床研修病院の臨床研修プログラムが研修医にとって魅力的になるよう病院担当者に対してセミナーを行いました。

第1回目は 9/17(土)に松江市内のホテルにおいて、第2回目は 11/26(土)に出雲市の島根大学医学部において開催しました。

各回とも講演のあとには活発な意見交換や質疑応答もあり大変有意義なセミナーとなりました。

●第1回

講演:「沖縄県立中部病院における卒後臨床研修の特色」
沖縄県立中部病院 副院長 宮城良充先生




講演

●第2回

講演:「中規模病院における臨床研修の工夫と問題」
市立加西病院 院長 山邊裕先生



意見交換

【医療対策課 坂本】

◆「第1回島根県臨床研修 指導医講習会」報告

—第2回は2月に開催—

県内の臨床研修病院の臨床研修が、研修医にとって魅力的になるよう指導医の教育技術向上のために島根大学医学部の共催のもと 10/22(土)~23(日)島根大学医学部において講習会を行いました。

本講習会は、厚生労働省の「講習会開催指針」に基づき開催し、講習会修了者には島根県・島根大学医学部附属病院長・厚生労働省医政局長との連名による「修了証書」が授与され、今回48名の指導医に手渡されました。

講習はワークショップ形式で行い2日間16時間の長時間の内容です。受講者から各医療機関の情報交換にもなり、自己研鑽にもつながったとの感想がありました。よき指導医として各病院での御活躍を期待いたします。

[スタッフ]

ディレクター:自治医科大学 三瀬 順一先生

タスクフォース:島根大学医学部 足立 経一先生、山口大学医学部 村上 不二夫先生、県立広島病院 溝岡 雅文先生、島根県立中央病院 中村 嗣先生、島根県医療対策課 木村 清志先生



スタッフ

大変お世話になりました。



【医療対策課 坂本】

◇「風に吹かれて」14 ~弥栄診療所に行くと思ひ出す患者さん~

12/8に弥栄診療所に代診に行きました。浜田には全く雪はないのに、トンネルを越えて弥栄に入ると一面

銀世界が広がりました。足元が悪い中、インフルエンザの予防接種を希望して来所される方も多く、お昼休み以外は、途切れることなく仕事させていただきました。

弥栄診療所へ行くと、私は看護師さんにある患者さんの様態を必ず聞くことにしております。その方は、90歳位の女性で、20年前に私が浜田の医療機関で勤務している時の患者さんです。ある日私に、弥栄の住民が浜田で診てもらっていると、急変でもあった時に弥栄では診てもらえんじやなからうか、どうしたらいいのかとおっしゃいました。恥ずかしながら、その頃私はその方が弥栄から通院していらっしゃることや、弥栄と浜田の位置的關係もよくわからずいました。すぐに紹介状を書きましようかと話しましたが、このまま通院を続けたいとおっしゃる。悩んだ末に私が出した答えは、病状や、治療内容を記載した文書をお作りすることでした。本人さんもこれがあれば安心だと言って、喜んで帰っていかれました。それから20年たった今も元気で暮らしておられます。それ以来、私は少し遠方の方などに対しては、まずはお近くの医療機関に転院されるようお勧めしますが、通院を希望される場合にはこうすることにしております。ひとこと、弥栄の90歳の女性がお元気なことを追加してお話しすることを忘れません。



【医療対策課 木村】

【今後の予定】

- ◆「第2回島根県指導医講習会」
 - ・2月4日(土)~5日(日)
 - ・島根女子短期大学(松江市)
 - ・ディレクター:名古屋大学 伴信太郎 教授
- ◆「第2回しまね地域医療の会」
 - ・2月11日(土)
 - ・出雲商工会館(出雲市)
- ◆「第2回島根県地域医療支援会議・医師確保部会」

- ・2月14日(火)
- ・サンラポーむらくも(松江市)
- ◆「臨床研修病院合同ガイダンス」
- ・3月18日(土)13:00～
- ・パルメイト出雲(出雲市)
- ◆「春季地域医療実習」
- ・3月
- ・各医療圏域
- ◆「臨床研修病院連絡会議」
- ・3月

【赤ひげバンク登録数】(H18.1.4)

- 医師：181人
- 歯科医師：4人
- 医学生：133人
- その他：24人
- 合計：342人

○平成14年度に「赤ひげバンク」を開設後、島根での勤務実績数は、医師15人、歯科医師2人、その他2人の計19人となっています。

浜田医療センターを地域医療支援病院に指定

県審議会了承



浜田市の独立行政法人国立病院機構・浜田医療センターの地域医療支援病院への指定が22日、松江市内であった県医療審議会です承された。開業医との連携強化により地域医療の充実が図られる。県内での指定は益田市の益田医師会病院に続き2件目。

6項目の指定要件を満たし、指定が決まった。かかりつけ医が同センターの医療機器を使って診断、治療が出来るほか、開放病床の設置や医師を対象にした研修の開催といった地域に開かれた病院づくりが進められる。

同審議会に出席した佐々木清博院長は、地域医療研修センターの設置などを示し「指定にふさわしい地域医療の支援をしていきたい」と話した。

同センターは病床数354床。2009年春までの新築移転オープンを目指している。

【山陰中央新報 05.12.23 より抜粋】



まず内科・外科確保を

島根大地域医療シンポ 邑南 医師不足に焦燥感

島根大が県内各地で開いている地域医療シンポジウムが12月4日、邑南町であった。住民や大学、医療機関から5人のパネリストが、過疎地における医師確保の問題など、それぞれの立場で意見発表した。

島根大学医学部附属病院の小林祥泰院長と正林督章県健康福祉部長は、同大や県が進める医師確保策について紹介。小林院長は「時間はかかるが、地域枠推薦で入学した学生たちが将来の地域医療を担う人材になっていくはずだ」と理解を求めた。

シンポジウムには、地元住民たち650人が聴講。関西国際大の宮原伸二教授を招いた特別講演があった。

【山陰中央新報 05.12.05 より抜粋】

集まれ！“地域を担う専門医！” (専門医養成プログラム)

島根県では、中小病院と大規模病院をローテーション勤務しながら専門医などの資格取得を目指す「専門医養成プログラム」に参加する医師を募集しています。

このプログラムでは、公務員としての身分が保障されるほか、国内研修や研究費助成などのサポートを受けることができます(詳しくは「集まれ！地域を担う専門医！」をご覧ください)。

また、プログラムの内容もそれぞれの医師が目指すキャリア形成に応じて柔軟に対応できますので、興味ある方は是非連絡してください。専任の担当者が全国どこでも伺って相談に応じます。もちろん電話での相談も可能です。

【医療対策課】

None Blue Rose



▼大学駅伝大会・高校サッカーなどお正月から様々なスポーツ大会の映像が目飛び込んで参りましたが、今回はウインタースポーツについてご紹介します。

▼[日本のスキーの歴史]

・1902年(明治35)青森歩兵5連隊の八甲田山雪中行軍遭難(220名のうち12名を除く全員が凍死)事件を契機に、ノルウェーからスキーが日本に入りました。

・1911年(明治44)オーストリアのデオドル・エドレフ・レルヒ少佐(1869～1945)が新潟県高田歩兵第13師団に着任、スキー専修員(青年将校10名)に教授したことから、新潟県上越市が日本スキー発祥の地と言われています。

▼[島根県]

島根県の中国山脈沿いには、数多くのスキー場があり西日本各地からスキーヤー・ボーダーが集まります。また、スケート場も県東部・西部にあります。

▼県内のゲレンデも、銀世界の雪景色一色です。今年は積雪も豊富です。冬場の運動としてもぜひウインタースポーツしましょう。

▼ともあれ、今年は冬季オリンピックトリノ大会、ワールドカップサッカードイツ大会とスポーツイヤーでTVに釘付けとなりそうです。



Itaru

青い薔薇は園芸家の夢、藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことで BlueRose は不可能という意味。NoneBlueRose は私たちの地域医療への熱いメッセージです。



しまね地域医療支援センターの連絡先
(島根県庁医療対策課)投稿募集中
〒690-8501 松江市殿町1番地
E-mail: iryou@pref.shimane.lg.jp
TEL: 0852-22-5251
FAX: 0852-22-6040
ホームページ[島根の医療]:
<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>

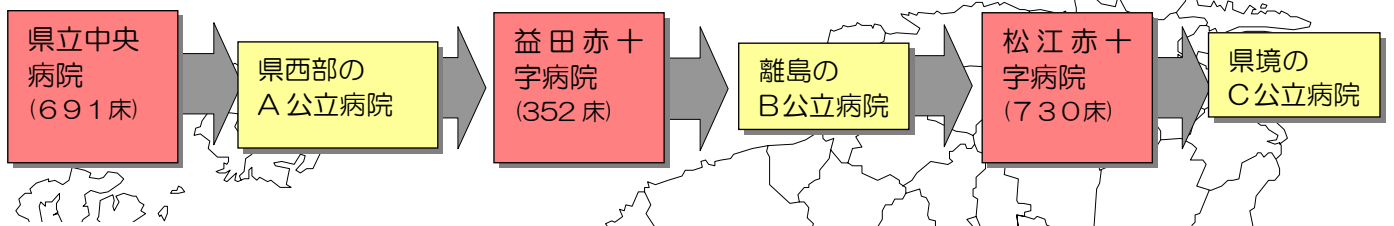
『しまね地域医療支援センターによる**専門医養成プログラム**』**集まれ！地域を担う専門医！**

島根県では病院の協力により、県内の**大規模病院**での勤務と**地域の中小病院**での勤務を交互に行うことのできる、比較的長期の病院ローテーション勤務プログラムを準備しました。

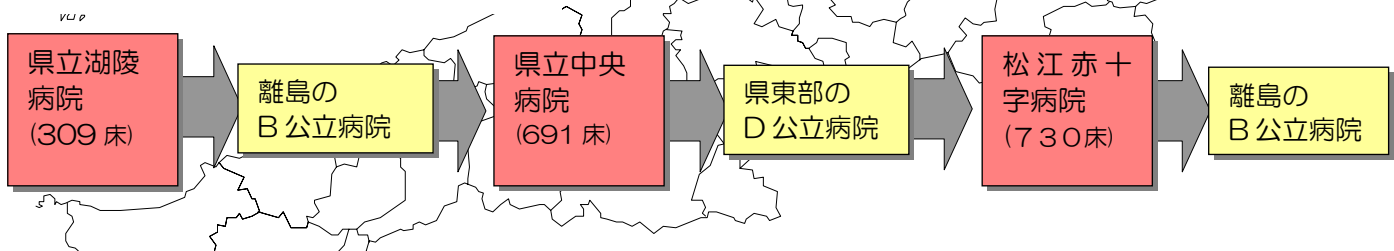
多種多様な臨床現場が経験でき、専門医を目指すドクターの方々にとって魅力的なプログラムとなっています。

プログラム例

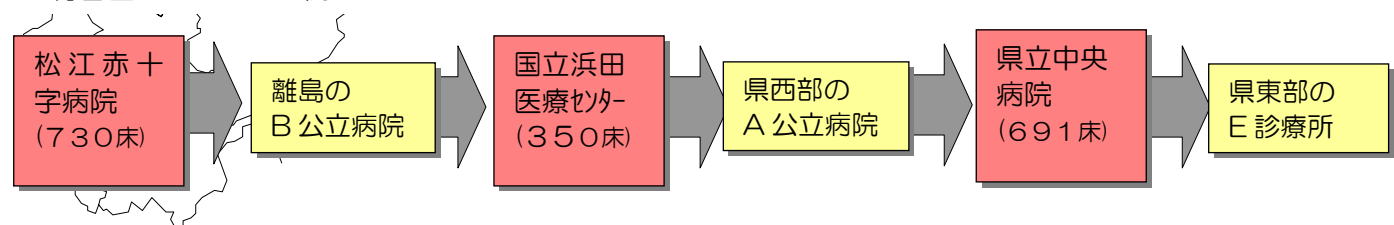
● 産婦人科医のプログラム例



● 精神神経科医のプログラム例



● 総合医のプログラム例



プログラムの運用

- このプログラムにより勤務する方は、免許取得後6年目以降の医師とします。
なお、このプログラムによる勤務を前提としたプレ勤務として、島根県立中央病院において初期臨床研修医あるいは専攻科研修医（卒後3～5年目研修、嘱託医）として勤務することができます。
- 一箇所の勤務は2～3年とします（本人の希望も考慮します）。
- 大規模病院と地域の中小病院をセットで勤務いただくことが基本になります。
- 地元大学医局と連携を図り、極力民間病院等での勤務も組み込めるようにします。
この場合、当該医局への入局は本人が自由に選択できるようにします。
- それぞれのドクターに合った勤務プログラムを相談のうえ決めていきます。

バックアップ体制

地域の中小病院における勤務が診療科一人体制の場合、協力病院から定期的に応援医を派遣するなど、医師が一定程度の休暇が取得可能な勤務とならないようバックアップ体制を確保します。

国内研修

地域の専門医として、より高い技術を習得していただくために、プログラム開始から概ね10年経った時点で、国内の大学や病院の研修を一年間勤務として受けることができます。

研究費

地域の専門医として、最新の技術を習得していただくなどの目的で、学会等への参加費や専門医師が共同研究する場合の研究費を用意します。

プログラム・サポーター

プログラム期間中において、勤務上の問題や生活上の問題など、分からないことを気軽に相談できるようプログラム・サポーター（専任の医師）を配置します。

地域医療の会

このプログラム参加医師や自治医大卒医など、地域医療に携わる医師のうち希望者が集い、情報交換や地域医療の意見交換を行う会をつくります。

身分及び待遇

- 身分 県職員、市町村職員又は国家公務員として、公務員の身分を継続します。（ただし、民間病院勤務の期間を除きます）
- 給与 所属する病院の規定により支給します。
- 退職手当 プログラムによる勤続期間に応じてプログラム終了時に支給します。
なお、プログラム終了時には勤務の区切りをつけ、退職金等は精算いたします。
- 共済 地方(国家)公務員共済組合に加入します（民間病院勤務の場合を除きます）。
- 休暇 所属する病院の規定によります。

募集対象者

- 臨床医を目指す全国の医師
- 概ね20歳代～40歳代
- 産婦人科医、精神神経科医、総合医、その他

定員

なし

応募手続と〆切

まずはご連絡のうえ、履歴書をご提出ください。応募に当たって期日の〆切はありません。

選考方法

委細面談のうえ決定します。
(こちらからの出張面談も可)

問合せ先

島根県庁医療対策課 しまね地域医療支援センター
〒690-8501 島根県松江市殿町1番地
電話：0852-22-5251 FAX：0852-22-6040
e-mail：iryuu@pref.shimane.lg.jp
ホームページ「島根の医療」：<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>